

今後の当山行事予定

秋季大祭(九月二十八日)

●御本尊御開扉大護摩供(本堂)

午前五時・十時・十一時半・午後一時・二時・三時半

●大般若経転読法要(本堂)

午前十一時半 午後一時 開始

●柴燈大護摩供

七五三詣り(十一月中)二十六日を除く

●七五三祈禱会(本堂)

午前六時・十時・十一時半・午後一時・二時・三時半

納め不動(十二月二十八日)

●御本尊御開扉大護摩供(本堂)

午前五時・十時・十一時半・午後一時・二時・三時半

交通安全祈願

午前8時30分より午後4時まで
毎時0分/30分の30分毎
(但し、毎月28日は御縁日にて通行禁止となりますので、お車の安全祈願はお勧めできません)

毎日の御護摩奉修時間

午前6時(28日は5時) 午後1時
午前10時 午後2時
午前11時30分 午後3時30分

仏具磨きの日のお知らせ

9月25日 10月25日 11月26日 12月25日
この日は仏具を磨く日ですから、昼の御護摩はございません。(朝6時のお勤めはいたしております)

立秋とは名ばかりの厳しい暑さが続いており、連日の暑さにはささか参っておりますが、皆様は健やかに過ごされることを祈ります。今号から「経典解説」と題し、当山の礼拝法則から、お経の意味や内容を解説するコーナーを開始いたします。微力ながら、皆様がお不動様とさらなるご縁を結んでいただく一助になればと考えております。

さて、九月二十八日の秋季大祭では、境内で柴燈大護摩供、本堂では大般若経転読法要が勤められます。まだまだ日中は暑い時候ではございますが、皆さまどうぞお誘い合わせの上、ご参拝くださいませようご案内申し上げます。

編集人



平成30年9月18日発行

通巻 158号

発行所
瀧谷不動明王寺
〒584-0058
富田林市彼方1762
電話 0721-34-0028
振替 00930-5-17704
●発行人 荒谷純光
●編集人 荒谷純栄

- 観音まつり法話その① 佐藤隆一師 2~3頁
- 経典解説 懺悔文/観世音夏まつりご報告 4頁
- 秋季大祭九月二十八日 大般若経転読法要 柴燈大護摩供/大峯山入峯修行報告 5頁
- お初穂米お供えのご案内/七五三詣りのご案内/本堂御宝前ロウソク献灯のおすすぬ 6頁
- 記念事業寄進者御芳名 7頁
- 今後の当山行事予定 8頁

「天災は忘れた頃にやってくる」とは、寺田寅彦の言葉として有名ですが、災害が起こる度に思い出されます。

今回の大阪北部地震や、西日本を襲った豪雨もあまりにも突然でした。二百名を越す方がお亡くなりになり、被害に遭われた方々は本当に大変なことだったのでないでしょうか。改めてお見舞い申し上げます。

日本は災害大国という、あまり嬉しくない名称で呼ばれています。それが、それは大多数の日本人にとって共通する認識でもあります。しかし、みんな分かっているはずなのに、喉元過ぎれば熱さを忘れる。事が起こって数年も過ぎると、私たちは何も無かったように毎日を過ごすようになります。

災害が起こった時は、防災システムを見直せ、避難経路をしっかりと作れ、などなど多くの意見が出されま

すが、それも最初のうちだけで、次第に実行もされずにトーンダウンしていきます。経費も労力も多くなることですから、なかなかすぐには決断できないものかもしれません。が、後の祭りにならないように、なるべく早急に実行していくのが理想です。

この、なかなかすぐに実行できないことは、私たちにおいてもよくあることです。

『華厳経』の明難品に、次のような譬え話があります。

譬えば、優秀な医者が出て様々な治療法を知っていると、もしその医者自身が病気になる時に、自分の病気を治すことができないようでは、意味がない。同じように、多くの教えを聞いて豊富な知識を持つたとしても、その知識を生かせなければ何もならない。それは、別に譬えるならば、泳ぎ方を教えてもらっ



た子供が、実際に泳ぐ練習をしなれば、決して泳げるようにはならないのと同じです。泳ぎ方を知っていても、すぐに溺れてしまいうでしょう。

この『華厳経』の譬えは、私たち凡人には仏の説かれた仏法を聞いてすぐに煩惱を断ち切る者もいれ

ば、正しい教えを聞いても煩惱を取り除くことができない人たちがいるのはどういう理由なのか、という文殊菩薩の質問に対して、法首菩薩が答えたものです。

今の日本は高学歴社会であり、テレビのワイドショー番組では多くの知識人がコメンテーターとして様々な論評をしています。見ていると、なるほどと思う発言もありますが、結局のところ、司会者がそれとなく話をまとめてそのまま終わってしまっています。私たちが自身も、もしかしたらテレビ番組のように、あれこれ批判しているだけで、何も実行せずそのまま終わってしまうことが多々あるのではないのでしょうか。

私たちは、机上の知識だけでなく、それがこの社会でどう活かしているのかを考え、そして日々実践していこうという気持ちをもって努めて行きたいものです。

観音まつり法話

その①
神奈川教区 圓應院
ご住職 佐藤隆一師

このお寺は弘仁十二年にお大師様、空海によって開かれたということですが、この頃というのは、お大師様はもう八面六臂の大活躍をされていました。約五年前に高野山を開かれました。ですからこの辺りもよくお歩きになられた場所だと思えますし、ちょうど四国の満濃池の改修工事を手掛けられておられた時期でもありません。どういふことかと言いますと、お大師様は中国にいらっしやった時、当時の都長安では、キリスト教とかゾロアスター教とか中近東の人とか東南アジアの人とか、当時長安というのは最大の都市でしたからあらゆる国の優秀な人材の方々が切磋琢磨しておりました。ですからインド人がサンスクリット語を読んで中国語に翻訳している……一千二百年前

の話ですよ、ちょっと信じられないです。そんな所へお大師様は日本から命がけで海を渡られてそういう刺激を受けて帰ってこられました。帰ってこられると、残念なことながら嵯峨天皇のお兄さんの平城天皇がもう一度天皇になりたいという権力闘争が起こりまして。歴史としては「葉子の変」と言います。お大師様の気持としては、長安という世界最高の都市から帰ってくると、どうして兄弟で権力闘争をされているのかなと恐らく情けない気持ちでおられたと思います。そして何とかこの国を良い国にしようということ、鎮護国家というような法要、あるいは祈りの場を様々な所にお造りになられたんだろうと思えます。そういうお大師様のお気持ちの表れが、こちらの「瀧谷不動明王寺」であると思われれます。

がようやくそれが達成できた時に、今度はそれが逆に我々を苦しめてしまっている……これはいつたいどういふことなんだろうかと首を傾げざるを得ないような状況が続いています。つい最近も、地方都市がこれからどんどん崩壊していくかもしれないということですが、新聞の一面に大きく載っていました。

今から約一万三千年前くらいに、地球が少し暖かくなってきました。氷河期から間氷期に入ったんですね。そうしますと水が融けて河が氾濫しやすくなりました。そして河のほとりで水がひいた後は、おいしい果物が出てくるというようなことを、人間も含めて多くの動物が気付いてきます。動物はただこれらを食べにただけですが、人類はこの果物の中にある小さく固いものを水の中にいれておくと、芽が出ておいしい果物が成る草や木ができるのかもしれないと段々気付いてくるわけです。そうなると今度は、この種を集めてとっておこうとなり、水辺に蒔くようになりました。すると芽が



ボス猿が小さい猿に、はいどうぞとあげるようなことはまず無いそうです。自分の子供でも孫でもそうです。人間だったら当たり前のことですが、他の動物はなかなかこれができないそうです。

まあこうして集団で生活をしていくうちに徐々に穀物も溜まってきました。自分でだんだん智恵もついてきました。そして農耕が始まって大体五千年くらいたってから、マチ全体に外壁を造って動物や違う部族の攻撃から守るようになってきました。例えばギリシャでは、これをポリス国家と呼んでいます。

人の住むところがムラからマチに大きくなりますと、今度は職業が分化されてきました。塀の中に住んでいる人たちと外の人たちと

の交流が必要になってきますし、その土地独特の農作物とか他の物の流通が始まり商業が興ってきます。商業が飛躍的に伸びるようになるには物々交換では効率が悪いんです。そこでギリシャでは金貨が発明されます。おもしろい話ですが、当時の人々はお財布を持っていないので、金貨を口の中に入れていたそうです。確かに安全ですけど、人からはあまりもらいたくないですよ。

話は逸れましたが、この貨幣の誕生で私たちの生活が大きく変わりました。貨幣を蓄える人たちが出てきて、差別的な考えが起こり階級社会が誕生したと言われています。人間が社会をつくって外敵から身を守るために、皆が固まって協力して生活するマチをつくるというある意味素朴な発想だったと思えますが、それが徐々に



と洗練されてくると便利になったのは事実です。学校のようなものもありました。そしてアリストテレスとか孔子とかお釈迦様とか、紀元前五世紀ころに世界同時に智慧を持った賢者の方々が出てくる

わけです。弟子たちもそういう人たちのお話を聞きに、たくさんいろんな処から集まってくるわけです。そういういい面もあるんですけれど、先ほど言いましたように階級ができてしまったりするんです。お釈迦様が説かれた初期の仏教では「生まれが人を決めるのではなくて、行いが人の価値を決めるんですよ」という言葉が再三再四繰り返されます。すでにお釈迦様の時代にはパラモンという特権階級があったんですが、お釈迦様はそれに異を唱えられました。

次に話は変わりますが、農耕が始まった頃の地球上の人類はせいぜい数億人でした。一億人くらいだったかも知れません。つまり、今の日本の人口が世界の人口くらいだったんです。このくらいの人口がずっと約一万年くらい続きました。大きな変化が起こるのが今から約二五十年前、産業革命がイギリスで興ってヨーロッパに広がり、アメリカに伝わり、いろいろな工業製品が作られるようになりました。そのおかげで人間の生活の質というのは比べ物にならない

いくらい、豊かにそして便利になりました。今でいうインフラもほとんど整備されていきました。そうなると今度は素晴らしいことな人口が一百億とかになつてくるのと、もう地球だけではどうしようもなくなるそうです。アメリカのある民間企業は宇宙で人間が生活できるようにいろいろ研究・計画をしているそうです。また太陽系の惑星から地下資源を採ってこようという計画を真剣に考えているそうです。夢のような話ですが、今ではもう技術的に不可能ではない状況にまでなっているそうです。

この法話は平成二十六年年度の観音まつりにてお話しただいたもので、編集の都合によりこれまで未掲載となっております。ここに掲載いたします。

(次号へ続く)

經典解説

懺悔文

我昔所造諸惡業 皆由無始貪瞋痴 從身語意之所生 一切我今皆懺悔

〔出典：華嚴經〕 普賢行願品(般若詠)〕

【書き下し例】

我昔より造る所の 諸々の悪業は 皆無始の貪瞋痴に由る 身語意従り生ずる所なり 一切我今皆 懺悔したてまつる

今号から「經典解説」と題し、当山でおつとめする際に使用するお経の本『瀧谷山礼拝法則』から、お経の内容や意味を、少しずつ紹介いたします。

まずは、最初の「懺悔文」から。「懺悔」(仏教読みでは、さんげ)とは、仏様の前で自らの行いを反省し、犯した罪を述べて許しを請うこと。次に「悪業」とは、私たちがこれまで行ってきた悪い行いのことです。では、私たちがいつかどんな罪を犯したのでしょうか。自分は何も悪いことはしていない、と思われる向きもあるかもしれませんが、誰でも些細な過ちをしてしまった経験はあるはず。また、知らず知らず間違ったことをしている場合もあります。たとえ自覚は無くても、私たちはこのように小さな罪を重ねているわけです。

さらに仏教には、輪廻という考え方があります。私たちは無限の昔から生まれ変わり死に変わり、そのたびに小さな罪を重ねていけば、塵も積もれば山となります。気づかないうちに私たちは、この世に生まれつく時には、すでに限らない数の悪い行いを重ねてきていることになり。

の悪い行いを重ねてきていることになり。仏様はこれをお見通しです。だから私たちはたとえ小さなことでも、仏様の前で自らの罪を述べて許しを請い、すがすがしい心で仏様に手を合わせる事が大切です。

さて、私たちが行ってきた悪い行いをじっくりと反省すると、それにはすべて原因があることに気がきます。「無始の貪瞋痴」とは、始まりの無いほどの昔から、私たちの心にまとわりついている、貪欲さ(貪)・怒り(瞋)・愚かさ(痴)のこと。この三つの煩惱が、心にまとわりつき、心を惑わすために、これまで数々の悪い行いを私たちは重ねてきたのだ、という事に私たちは気付きます。翻せば、この貪欲さ・怒り・愚かさを心から振り払い、悪しき行いを改めていくことが、私たちが立てるべき目標となります。このように、おつとめの最初に、「懺悔文」をお唱えするのは、私たちがこれから向かうべき道ゆきを自覚する、という意味があります。

ところで、悪い行いにも種類があります。「身語意」とは、身体(身)・

言葉(語)・心(意)のこと。私たちの行いは、身体の行い・言葉の行い・心の行いという形をもって現れます。この三つは、次回以降も大事になってくるので、覚えておいてください。次回からは、悪い行いを改めていくには具体的にどうすればいいか、そのプロセスに入ります。



観世音夏まつりご報告

七月十八日、観音総拜所にて観世音夏まつりが勤められました。

午後一時からの施餓鬼廻向法要では、皆様からお申し込みいただいたご戒名を、二体一体読み上げて廻向申し上げ、お参りの皆様には、故人を偲び、ご焼香してお祈りいただきました。

今年は梅雨明けが早く、記録的な暑さでしたが、たくさんの方にご焼香いただく中、読経の声が響き渡る清々しい法要となりました。

秋季大祭(九月二十八日) 大般若経転読法要 柴燈大護摩供

当山では、平成二十五年より、春季大祭(五月二十八日)に加えて、九月二十八日を秋季大祭とし、大般若経転読付大護摩供ならびに柴燈大護摩供をお勤めしております。

本堂では午前十二時半の大護摩供に際し、大般若経転読法要が勤められます。『大般若経』六百巻を作法に則つて転読し、世界平和・国土安穩・五穀豊穰等を祈念し、併せて皆様のお願いを祈念いたします。

加えて午後一時より、境内にて大勢の修験者により柴燈大護摩供が勤められ、お不動様をご本尊として、国土安穩・信徒安全・各願成就等を祈念してお勤めいたします。高々と燃え上がる護摩の火は、お不動様の智慧の火であり、私たちの煩惱を焼き尽くし、智慧を目覚めさせてくれると言われています。

まだまだ日中は暑く、厳しい時候ではありますが、皆様どうぞご参拝くださり、ご利益をいただかれませう、ご案内申し上げます。

- 午前五時 御本尊御開帳大護摩供
● 午前十一時半 大般若経転読付大護摩供
● 午後一時 柴燈大護摩供



秋季大祭 柴燈大護摩供の様子

大峯山入峯修行報告

初めまして。今年の四月から瀧谷山で僧侶として奉職しております野口大真です。七月二十二日、二十二日に、奈良県南部の大峯山にて、修験の方々と入峯修行を行いました。

私自身、大峯山の入峯修行は初めてで、事故で亡くなった方の話を聞き不安もありましたが、先達の方々の支援もあり、事故なくまた体調を崩すことなく、山上まで登ることができました。

山上に着くまでに表行場の鐘掛岩、西の覗と呼ばれる場所で修行をさせていただきました。鐘掛岩は素直に登ればなんてことはないのですが、落ちてしまえば死ぬと思うと、中々足が出ません。それでも先達の方の丁寧な教えにより無事に登ることができました。次に西の覗では、崖下に身を乗り出し「死の恐怖」

を実感することで、日々の生活で抱える悩みや迷いを断ち切ることが可能となり、新しい私になれるのだと感じました。

表行場の後に裏行場の修行をさせていただきましたが、どれも私の想像を超える恐怖感がありました。案内してくださる方の話を聞き、必死の思いで岩を超え無事修行を終えることができました。

私はこの修行から、普段より周囲の方々にとのようなことでも支えられて今の私が存在できており、決して私自身の力だけで生きていくわけではないということ、本山での修行以来改めて感じました。これからこの気持ちを忘れることなく、修行に励んでいきたいと思えます。

野口大真



お初穂米お供えのご案内

今年もお初穂米のお供えをご案内する時となりました。

お初穂とは、今年の実りに感謝し、来年の豊穣を祈念して神仏に捧げるお供えのことです。お米（初穂米）またはお金（初穂料）にてお供えいただけます。

●奉納いただきましたお初穂米は、来年節分過ぎまでお不動様の御宝前にお供えし、今年の収穫に感謝し、来年の豊作を祈念するとともに、御信徒各家の家門繁栄、子孫長久を重ねてお祈りいたします。

この山報と同封のビニール袋にお初穂米（料）を入れ、多少に関わらずお供えいただけますよう、ご案内申し上げます。

●受付
当山事務所



お初穂米のお供え

七五三詣りのご案内

当山では十二月中、七五三のご祈祷をお勤めしております。

子供の健やかな成長を祝い、無事を願うのは今も昔も変わりません。七五三は、公家や武家で行われた男女三歳の「髪置」、男児五歳の「袴着」、女児七歳の「帯解」などの儀礼に由来し、江戸時代ごろより七五三として一般的に広まってきたようであります。

七五三のご祈祷をお受けのお子様には、絵馬と縁起物の千歳飴の御下がりをお渡ししております。

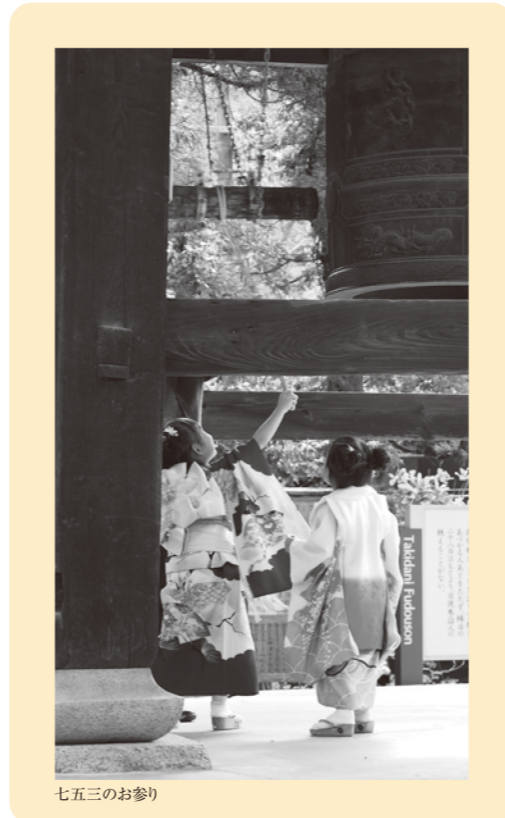
皆様方のお子様、お孫様の七五三をお祝いされ、お不動様のご加護をいただかれますよう、ご案内申し上げます。

●祈祷時刻（二十六日を除く）

午前六時・十時・十一時半
午後一時・二時・三時半

●祈祷料
五千円より

●お下がり
お札・身代守・絵馬・千歳飴・おもちゃ



七五三のお参り

本堂御宝前 ロウソク献灯のおすすめ

瀧谷山では、御信徒の皆様にお供えいただいたロウソクを、お不動様の御宝前にお燈明として毎日欠かさずお供えしています。

燈明は、古来仏様への最も大切なお供えの一つとされ、現世・来世にわたる大きな利益があるとともに、その火は仏の智慧の火となり、私たちの心を照らし、闇を払って真実のあり方を見せてくださると言われています。

ロウソクには、お名前とお願ひ事をお書きいただき、お不動様の御宝前にお供えして祈願いたします。お不動様とさらなるご縁を結び、大きなご利益をいただかれますよう、ロウソクの献灯をおすすめいたします。

●ロウソク大 二千元
小 五百円

●受付 当山御膳場



本堂でお供えされる祈願ロウソク

記念事業寄進者御芳名 (敬称略順不同)

※インターネットでの御芳名の掲載は控えさせていただきます。

●先の春季号におきまして、

様のお名前に誤植がありました。お詫びしてここに訂正いたします。

●平成三十年七月以降にご寄進頂いた方の御芳名は、来号以降に掲載いたします。

